

第8回久御山町環境基本計画（久御山町地球温暖化対策実行計画
「区域施策編」含む）策定委員会

1 日 時 令和5年8月21日（月） 午前10時00分～12時00分

2 場 所 久御山町役場5階会議室51・52

3 出席者 委 員：10名
オブザーバー：2名
事 務 局：7名
委託事業者：1名

4 内 容

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 情報提供、事例紹介

（1）脱炭素に関する事業者の動向、取組事例について

4 協議事項

（1）久御山町環境基本計画の策定に係る前回の検討事項の振り返り及び最終確認について

（2）今後の取組等について

5 閉 会

環境基本計画に関する委員意見まとめ

■協議事項

(1) 久御山町環境基本計画の策定に係る前回の検討事項の振り返り及び最終確認について (資料1、2、3)

■主な意見

- P76 の推進体制において、「住民」、「事業者」、「関係機関・団体」等の各取組の実施主体が「事務局（産業・環境政策課）」とだけしか矢印でつながっておらず、「関係各課（全課）」とつながっていないように見える。温暖化、環境施策を実行するにあたり、いかに全庁的に横ぐしを通すことができるかが非常に重要である。
- 「事務局（産業・環境政策課）」と「関係各課（全課）」が連携・協力と記載されているが、計画が全庁的に動くよう、一体的な体制として表記した方が良いのではないか。
- P78 の「⑤中間支援組織」の項目において、「気候市（町）民会議等からの発展による新規組織の設立」とあるが、気候市民会議は会議体ではなく、活動の取組手法であるため、表現を修正してはどうか。
- 環境基本計画について、町民の方々にいかに分かりやすく伝えていくかが今後の課題である。パンフレットやリーフレットを作成する際には、例えば中学生と一緒に考えてつくっていくなどの取組は一緒に考える良い機会となるため、そういった手法も検討いただき、PRに努めていただきたい。

(2) 今後の取組等について(資料4)

■主な意見

- 小、中学校での取組については、プロモーション事業の中ではやや小さめかもしれないが、一過性ではなくだんだんと定着し、子ども達を介して両親や祖父母など周りの方々に広がっていくことになれば大きな役割を果たすので、力を入れて進めていただきたい。
- 多くの取組を行うための体制整備が心配。また、ワーキンググループで議論するテーマ設定は非常に重要である。優先度が高いもの、実効性のあるものをしっかりと適切に決めていく必要があり、先進事例をうまく活用していくことが重要である。

会議議事録

次第3 情報提供、事例紹介

(1) 脱炭素に関する事業者の動向、取組事例について

●説明概要

- ・事業者1社による脱炭素の取組を紹介。

次第4 協議事項

(1) 久御山町環境基本計画の策定に係る前回の検討事項の振り返り及び最終確認について (事務局より資料1、2、3に基づき説明)

●説明概要

- ・第7回計画策定委員会及び第3回久御山町環境審議会の意見をもとに計画の修正箇所を説明。
- ・計画の修正箇所をふまえたうえで計画素案の最終確認を行った。

●主な意見・質疑応答

(委員等)

気候市民会議の位置付けや評価が気になります。例えば44ページに、「気候市(町)民会議など、環境に関する交流の場を創出し」という表現があります。会議を行うことによって盛り上がるという側面はあるかもしれませんが、気候市民会議自体はニュートラルな研究の場的な位置付けであり、最期は激論を交わす展開があると思います。

78ページでも、「気候市(町)民会議等からの発展による新規組織の設立」とありますが、「気候市(町)民会議等からの発展による」というのは、表現に改善の余地があるのではないかと思います。

⇒(事務局)

気候市民会議は、無作為で選ばれた町民の方から提案をいただく手法で、以前から取り入れてはどうかというご意見を頂いておりました。気候市民会議の位置付けや中間支援組織の説明文については考えさせていただきたいと思います。

(委員等)

気候市民会議は会議体ではなく活動の取組内容だと思います。会議体であるかのような表現は誤解を生みやすいので、修正をしていただきたいと思います。

(委員等)

行政の立場からの話になりますが、我々、京都府も温暖化対策を庁内で展開するときに、ほかのセクションとどのように連携するか、あるいは温暖化、環境という施策の実行をいかに全庁的に横ぐしを通すことができるかという点で非常に苦労しています。土木、農業、商工、それぞれのセクションに環境の視点を入れていただきたいと思いますのですが、各部署は部署でそれぞれ自分たちでやらなくてはいけないこともあります。

76ページの推進体制図で、関係行政機関やステークホルダーの方々との連携体制は構築されていますが、役場内での横ぐし、環境という視点を通す体制はどうか、もう少し議論してもいいのではないかと思います。

例えば京都府では、地球温暖化については地球温暖化対策本部の長に知事を置き、各教育長が

幹事に入り、大きな施策を動かすときには幹事会を通して施策や協力を要請したりしています。せっかく重厚な計画が立ち上がってきましたので、これをしっかりと消化しながら推進していくためには、ステークホルダーの皆さんとの協力・連携体制の構築とともにまずは役場内で関係セクションの方々と連携しながらできる仕組みをご検討いただければと思います。

また、町民の方に向けていかに分かりやすく伝えていくことができるかが重要だと思います。計画のパンフレットやリーフレットを作成する際には、中学生の言葉を借りて中学生と一緒に分かりやすいものを考えていくなど、一緒に考えることがいい取組になるかもしれません。ぜひ分かりやすい、伝えやすいものを作成してPRに努めていただきたいと思います。

⇒ (事務局)

全庁的な部署間での分野横断的な取組、連携体制の構築を考えていきたいと思っています。例えば大きな開発の場合、環境審議会を通すというプロセスを経ますが、細かい部分での取組を進める上で、各部署間で連携できる体制を作りたいと思っています。

計画の伝え方につきましては、次の議題でご説明いたしますが、プロモーション事業を開始します。この計画策定委員会の中でも「分かりやすく伝えていくこと」、「意識の醸成を図っていくこと」が非常に重要だというご意見をいただいておりますので、学校教材等で使えるような柔らかい文章で理解が進むようなパンフレットをプロモーション事業の中で作成し、さまざまところで活用していきたいと考えています。

それと、計画策定後にまずは概要版を町内に全戸配布します。また、スタートアップシンポジウム等も考えておりますので、まずは重点的に周知、PRを進めていきたいと考えています。

(委員等)

先ほどありましたとおり、各自治体で性格が違い、京都市は環境部局が筆頭部局という言い方をされているので、全体的に強くいきやすいのですが、京都府は以前は脱炭素社会推進課の発言が全庁に響きにくかったということがあると思います。

また、京都府の事務事業編に相当する温暖化対策プラン検討委員会で計画を改定するときに、歴彩館という非常にエネルギー浪費が激しい施設があり、京都府の脱炭素化がV字回復して増えてしまったことがありました。ぜひ再発防止をしていただきたいと強く発言した結果、今後、京都府に関係する建物はすべて脱炭素社会推進課にいったん相談すると明記されました。

この推進体制図では、「事務局（産業・環境政策課）」と「関係各課（全課）」との連携・協力としか書かれていませんが、この計画が全庁的に動くようにもう一步踏み込んだ体制を検討いただければと思います。

(委員等)

この環境の会議に出席させていただき、役場の方や専門家の方がここまで考えてくださっていることを住民の立場から非常に頼もしいと思います。私たちも何かできることをさせてもらいたいという気持ちをいつも新たにしていますが、この熱い思いがどうしたら広く住民に分かりやすく伝わり、行動につながるのかを考えています。

災害に対するキーワードとして、公助と共助が教科書でも挙がってきますが、いま話し合っているのは、役場や国からの大きな仕組みや取組で公助にあたる部分です。それが住民レベルでお

互い助け合う共助につながっていかないと循環していかないので、そのバランスが大事だと思います。公助がどうあるべきかは分かりませんが、住民一人ひとりがお互いに助け合うことを促すような取り組み方を目指していただきたいと思います。こういうことがあるという提案だけでは、乗ってくる人と乗ってこない人がいますし、高齢者などでは乗りたくても乗れない人もいます。気密性の高い建物は自分達のためにもいいと分かっているけど、お金をかけられないという問題はたくさんあると思います。

先ほどのお話で「サクラ」がとてもいい車であることはよく分かりましたが、高齢化社会に入っていきますので、「サクラ」を買いたいと思っても買えない立場や運転が危なくてできない人が出てきたときにどうするかということも同時に考えていただくことが、将来にわたって発展していく一因になるのではないかと思います。それでこそ「サクラ」が一流のブランドとして広く認知され、買うなら「サクラ」となっていくのではないかと思います。

私たち若い者だけで住んでいたら、少し頑張って公共交通機関を利用できますが、高齢者と一緒に住んでいると医療機関への送迎などは必ず車を使わなくてはなりません。あるいは、交通弱者なのに運転できない年齢に達したときにどうするかということも考えなければなりません。先ほどもありましたとおり、車に付けた蓄電池を下ろすのではなくそのまま売れないかという発想が民間の共助にあたるのではないかと思います。

企業は企業なりの共助がどれだけできるかということを思いきって踏みだしていただくからこそ、個人レベルであっても日産はすごいなと思いますし、「サクラ」は高いけれど、やはり「サクラ」だなとみんなが思うくらい取り組んでくださっているのであれば後押ししようという、それが人間的な心情でもあるし、理想的な共感の仕方だと思うので、公助と共助のバランスを取っていくことが、78 ページの中間支援組織の大きな役割になってくるのではないかと思います。

一般の住民は公の便利な仕組みやありがたい仕組みをなかなか知る機会がなく、紹介してもそれだけで終わってしまうので、やる気のあるリーダーになれるような個人が出てくるためには、中間支援組織の人たちが、ただ情報を伝え合っただけでなく、バランスを取りながら意識のブレークスルーを図っていくことを、いつも虎視眈々と狙ってくださると歯車が回っていくのではないかと思います。

とても抽象的な話ですが、日産の「サクラ」の話から一步踏み出してくださることによって、私たちが多少高くても「サクラ」を買うという思いきりができると思います。個人レベルでできないことを共助のレベルであっても、大きな企業が行ってくださることで私たちがそれについて行くことができると思います。例えば役場のほうから、三世同居をしている家庭には「サクラ」の購入の際に出る補助金制度の仕組みがあるといいと思いますし、同居するようになるとリフォーム費用に補助金が出る制度がありますが、一方で最初から住んでいる人たちはどうなのかという疑問があります。

共助が進む仕組みを提供していただきながら、こちら意識のブレークスルー、知らないが故の意見ももちろん出せますので、そういうことが歯車を回すような中間支援組織を目指す内容を明記していただくとより分かりやすいのではないかと思います。

(委員等)

政策科学の分野では「我が事化」と言いますが、他人事をいかに我が事に変えていくか。その時に対個人だけではなく社会単位で巻き込んでいかなければいけないという話はよく言われています。社会などを巻き込みながら気付きを継続的な形で促進し、行政だけで進めるのではなく、誰がどのように行うのかをしっかりと育てることが重要だと思いますので、非常に重要なご指摘だったと思います。

私自身も会議に参加して、自分の家の冷蔵庫の消費電力を確認したところ、結構な消費電力で、ちょうど買い替えたところでした。そういうこともなかなか気付きが得られないため、気付きを得やすい機会をどんどんつくっていくことも今後の取組の中で継続していきたいと思います。

(委員等)

少し補足させていただきます。補助金のことは大賛成です。国もしくは自治体が補助金を切ってしまうので売れなくなることがあると思います。毎年予算化して補助金があれば、電気自動車の普及も進んでいくと思います。

なお、車の自動運転については、専門用語で「運転支援システム」といって、レベル1～4まであります。今はレベル2で止まっています。日産自動車も自動運転の最先端をいっており、レベル2の少し先のプロパイロット2.0では、ナビを設定して高速道路にのると勝手に走っていくのです。レベル3になるともっと進んだ自動運転ができますので、車を運転できない方や免許を返納した方などの交通弱者に対して、自動運転を使ってコミュニティバスを動かすことにも本格的に取り組んでいます。

(委員等)

76 ページの推進体制図は少し修正したほうがいいと思います。「②地域との連携」で、「相互に協力し合える」とありますが、各取組の実施主体に「住民」、「事業者」、「関係機関・団体」とあり、「協働（パートナーシップ）」の矢印が「事務局」とだけつながっているのはおかしいのではないかと。関係課とはつながっていないように見えてしまいます。

農業従事者の方が農林部局の方と普段付き合っていて、そういう方と環境の取組をしたり、商工観光の方が商工部局とお付き合いをして、その中で環境に取り組むときに、この体系図の中でどう入れるのかということです。

「事務局（産業・環境政策課）」と書いていますが、「関係各課（全課）」はおそらく久御山町役場という1つの組織があり、久御山町役場が住民、事業者、関係機関・団体とそれぞれつながって、その中で事務局は産業・環境政策課が担われて、かつ役場内の関係課との連携や組織体制をつくるのかどうかという議論になるかと思いますが、この後、パンフレットなどにこの図が入ってきそうな気がしたので、ここは矢印関係をよく見直して、主体が誰なのかを再度整理したほうがいいと思います。

(委員等)

39 ページの指標「脱炭素経営に取り組む町内事業者数」で、実際に事業者が取り組んでおられることを対外的に発信することは考えておられるのでしょうか。自発的な活動の推進ということなので、例えば、「うちの企業は積極的に脱炭素に向けて取り組んでいます」ということを外に向けて発信するためにステッカーを張るなど、企業が関わっていくのでしょうか。町民の皆さんに

知っていただくために、何か発信する方法があったほうがいいのではないかと感じました。

⇒ (事務局)

事務局でも、環境に配慮した取組を積極的にされている事業者を広く紹介するなど、見せ方は非常に重要だと考えています。例えば、「広報くみやま」は町内事業者さんにも配られていますので、環境に配慮した取組をされている事業者さんを広報誌等でどんどん見せていくことは非常に大事だと思います。今後、事業者さんと調整しながら、住民の方々にお知らせしていきたいと思います。

(委員等)

新潟県の燕三条地域では、企業をキャラクター化したトレーディングカードを作成し、カードゲームを始めているそうです。プロモーションではそういうアイデアも使えるのではないかと思います。

もう一つ、行政として「こういうことまでしましょう」とは言えますが、住民や子どもたちが、町が考えているよりもはるかに先に行くようなアイデアを考えたりすることがあります。極端に言えば、エコキュートで電気を使ってお風呂を沸かしているけれど、太陽熱温水器で沸かしたお風呂が隣にあるので今日は隣のお湯を借りましょうということまでやり始めたら、かなり省エネになると思います。それは、町としてやりましょうと言うことではないけれど、子どもたちや住民が「ここまでやれば脱炭素で電気代も減って良かったよね」という話になるかもしれません。地域が一体となった体制がというよりも、もう一步踏み込んだ動きの中でうちの町内会ではこんなことがあってこんな動きがあるということを示唆できるような内容があるといいのではないかと思います。

次第4 協議事項

(2) 今後の取組等について

(事務局より資料4に基づき説明)

●説明概要

- ・環境基本計画策定後に取り組む各種事業についてを説明。

●主な意見・質疑応答

(委員等)

こういう取組が起り始めているきっかけになったという意味でも、この環境基本計画の策定は非常に大きかったと改めて感じました。

私から、「1 久御山町環境政策プロモーション業務の実施」では、町民の皆さんに加えて、庁内の各部局の人たちとのコミュニティを絞った形でワークショップをして、意識醸成を図ったり、同じ目線にしていくことが、最初は特に重要ではないかと思います。その辺りの進め方を外向けのプロモーションと内向けの勉強会等をしっかり行う中で、3番や4番と連携して、地域の熱心に取り組まれている方や事業者に話をいただき、知識だけではなく熱意や本気度を共有することが重要だと思います。それが2番のワーキンググループと連携しているとさらに良いと思いますので、そういうコミュニティに構成メンバーが入り、その人たちがそれぞれのコミュニティの中でしっかりとリードしていただけるような構成になればいいと感じました。

(委員等)

小、中学校での取組については、プロモーション業務の中ではやや小さめかもしれませんが、一過性ではなくだんだんと定着し、子どもたちを介して両親や祖父母など周りの方々に広がっていくことになれば、かなり大きな役割を果たすと思います。

学校では、できるだけリアルなイメージが描けるように授業の中に取り入れられるといいのではないかと思いますので、ぜひ力を入れて進めていただきたいと思います。

(委員等)

計画を作ったことに満足して実施できないといったことがあります。この計画はうまく進めていただきたいと思います。

その上で、多くの取組を行うための体制の整備が心配です。それから、ワーキンググループで議論するテーマ設定は、非常に重要だと思います。優先度が高いもの、実効性のあるものを選定していくことは非常に難しいですが、しっかりと適切に決めなければいけないと思います。

そういう中で、先進事例をうまく活用していくことが重要だと思います。「たんたんエナジーなど」と書かれていますので、経験のある所をうまく活用したり、再エネ普及なども先進事例をうまく当てはめて、久御山町でどういう形が一番いいかを検討していくことが近道だと思います。

脱炭素経営に取り組んでいる所のアピール方法として、K E S が成功した要因は調達の基準にうまく組み入れたことで取得が増えたということがありますので、何らかのメリットがあるような仕組みづくりや後押しできる仕組みづくりを考えていく必要があると思います。

(委員等)

資料の2ページからかなりの取組課題が書いてありますが、課題の1つ1つがかなり大きなものだと思います。久御山町の職員の数が限られている中で、一気に取り組んで達成できるのかが心配です。今年度は上半期が終わろうとしていますので、例えばどれか1つをスタートさせて、あとは今年度中に体制を整えて来年度から一気にスタートするなど、取組課題を進めるためのスケジュールや計画が必要ではないかと思います。

⇒ (事務局)

プロモーション業務に関しては、委託事業者を選定し、契約に向けた事務を進めていますので、委託事業者と一緒に今年度下半期から3カ年で進めてまいります。

スケジュール感としては、かなり大変な内容であることは十分認識しています。まずはワーキンググループの設置が核になると思います。例えば、「エネルギーマネジメント（地域新電力）の設立に向けた検討」や「太陽光発電設備等や次世代自動車（EV等）の導入促進に関する検討」もワーキンググループを1つずつ作るなりして検討を進めていくこととなりますが、今年度下半期に関しましては、プロモーションとエネルギーマネジメント（地域新電力）を優先的に検討しなければいけないため、ここのワーキンググループを作ることが最重要だと認識しています。そのため、「太陽光発電設備等や次世代自動車（EV等）の導入促進」や「地域脱炭素化促進区域の検討」については、少し時期をずらして進めていく必要があると思っています。

(委員等)

環境に一番左右される農業に従事していますが、考えているスピードよりも環境変化のスピー

ドの方が早いと実感しています。作物を作るうえで今までに体感したことのない温度となっております。例えば田んぼでは、水を入れたい時期に水が減少して入れられないこともあります。あと5年たてば久御山町で農作物を作れないくらいの状況になるのではないかと感じています。どこかで環境に応じて修正していくようなビジョンを策定するように検討する場をつくっていただきたいと思います。

また、環境への取組については、町全体で統一感を持ちながら、「おしゃれで環境にやさしい農業をしています」というメッセージを打ち出したステッカーを農業従事者のトラックに張って町内を走り回ることによって意識が高まっていくということもあるのではないかと思います。

人間が考えているよりも、環境変化は想定できないようなスピードで先回りして進んでいると実感していますので、強く伝えたいと思いました。

(委員等)

ご議論いただきました久御山町環境基本計画につきましては、修正点も頂きましたので委員の皆さんの賛同を得られましたら、事務局と委員長、職務代理者との間で調整を行い、最終確認をさせていただくことでよろしいでしょうか。

(委員一同)

了承する。

次第5 閉会

以上